

特別支援学校におけるデジタル連絡帳活用の効果

学籍番号 209501
氏名 加藤 雄大
主指導教員 山本 利和

1. 背景

1.1 研究動機

従来の特別支援学校では、紙ベースのアナログな連絡帳が使用されている。筆者の実習校であるA特別支援学校がデジタル連絡帳を導入したことをきっかけに、その導入前後の変化に着目したことが動機となる。

1.2 実習校における連絡帳

デジタル連絡帳導入前の実習校であるA特別支援学校の観察記録からの考察である。連絡帳の記入するために、数々の制約が生じ、児童生徒が影響を受けていることが分かる。

2. 連絡帳の機能

2.1 連絡帳の役割

連絡帳の本来の目的や活用例について書かれている文献を参考にしつつ示した。連絡帳は、学校と家庭の連携するためのツールであり、そこでは情報共有がされ、教育や子育てを充実させるためのものである。

2.2 アナログ連絡帳(紙ベース)

紙ベースのアナログな連絡帳を使用する際の問題点を、先行研究を参考にして示した。加えて、その裏付けとなる実習校 A 特別支援学校の観察の記録を論拠として挙げた。アナログな連絡帳は、数々の制約が生じ、連携や共有が円滑に進まないことが起こりやすい。

2.3 デジタル連絡帳

デジタル連絡帳導入後の実習校 A 特別支援学校の様子を観察の結果を用いて示した。デジタル連絡帳導入により、紙ベースのアナログな連絡帳で生じていた数々の制約を改善できた。しかし、デジタル連絡帳の利点を生かしていない面も見られる。管理職側が、デジタル連絡帳を導入する際に、その意図を説明する必要があり、また学校現場でデジタル連絡帳

を導入する意義を教員側が重々理解する必要がある。